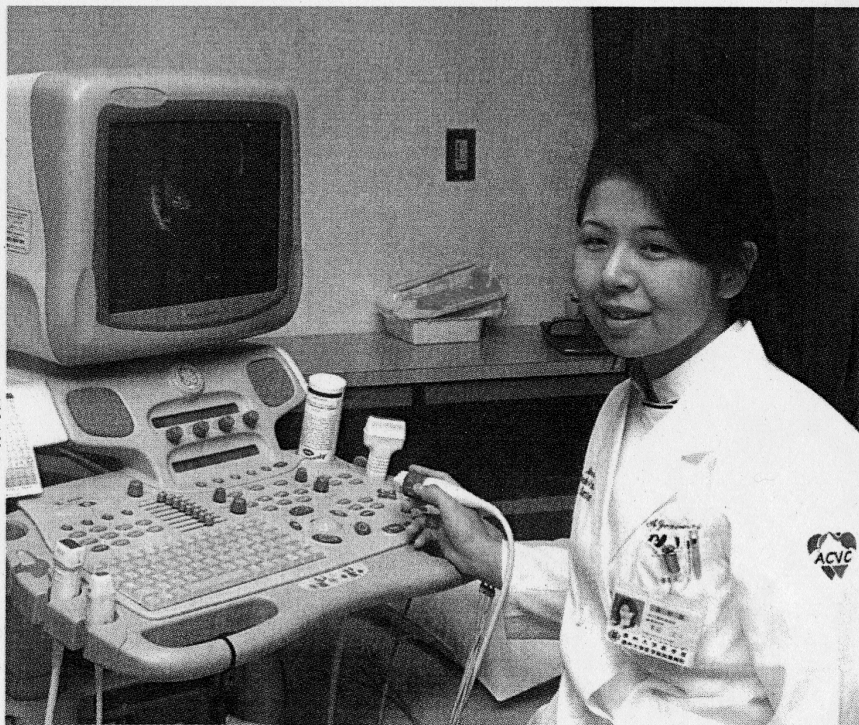


ひと紀行

優れた臨床医や研究者を輩出する信州大医学部。県内唯一の医学部として六十年余の歴史を重ね、最先端の医療に挑む現代の上医が集う。命を救い、病を癒やす医療の一端を探ると、熱い使命感とチャレンジ精神が脈々と流れている。
(寺口 信一)

最先端医療に挑む熱い思い

松本市 信大医学部



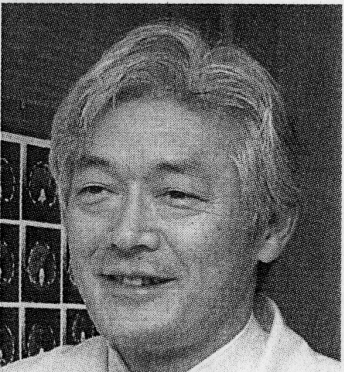
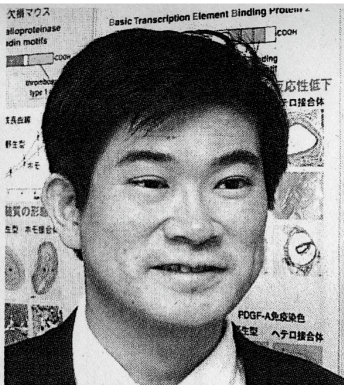
「父が医師で、その背中を見て育ちました」と話す米山文字子さん

新藤隆行(38)は昨夏、東大大学院の助手から大学院臓器発生制御医学講座の教授に大抜きされた。「ゼロからのスタートで苦勞もあるが、この年代でなければ思い切ったことはできない」。東大病院で毎週、当直を勤めていた生活は一変。動脈硬化や心筋梗塞など循環器疾患について、遺伝子改変マウスを使い、詳しい発生のメカニズムを研究室で探っている。

これまで、他の遺伝子の働きをコントロールする遺伝子KLF5の機能を発見。血管を新生させる物質、アドレノメデュリンの働きを突き止めるなど、新たな治療法の可能性を広げた。「各分野の専門家と協力して新しい取り組みとアイデアで勝負して行きたい」

池田宇一(51)は、循環器

長野市出身で二年前の春



(上から)新藤隆行さん、池田宇一さん、角谷眞澄さん

や磁気共鳴画像法(MRI)などで写されるわずかな影から、隠れた病態を解き明かす「読影」が専門。診断だけでなく、治療面でも期待が高まる放射線医学。地域の医療機関と協力して高い水準の医療を実現するネットワークの構築を目指したい
(敬称略)

に里帰り。大学院と付属病院の教授を兼任して研究室から臨床までを任される激務だが、「講演会で県内各地に招かれると『お帰りのさい』と声をかけていただき。皆さん、温かい。生まれ故郷じゃなければ、こんな一生懸命はやれませぬ」。

池田たちが今年、付属病院に設立した先端心臓血管病センター(ACVC)。

その新しいマークを白衣の袖に縫いつけ、循環器内科

に里帰り。大学院と付属病院の教授を兼任して研究室から臨床までを任される激務だが、「講演会で県内各地に招かれると『お帰りのさい』と声をかけていただき。皆さん、温かい。生まれ故郷じゃなければ、こんな一生懸命はやれませぬ」。

池田たちが今年、付属病院に設立した先端心臓血管病センター(ACVC)。

その新しいマークを白衣の袖に縫いつけ、循環器内科

新治療法の確立／入試で県出身者枠

地域によって医師が偏在する問題は本県にも影を落とす。過去十年間の入学者千人のうち県内出身者は百十九人どまり。初めて県内高校卒業者のために設けた入試推薦枠五人の合格発表が、きょう十日行われる。

放射線医学教室の教授、角谷眞澄(52)は「地元出身者を地元で育て、県内で活躍する人材を育成することが急務」と力説する。X線